



だんだんと暑くなってきました。もうすぐ夏本番。ジメジメとした梅雨もやってきます。今年の夏も暑そうですね。暑くなってくると熱中症に注意してください。人も動物も水分補給を心掛け、気温が高くなる時間帯はなるべく室内で過ごしてください



今月は…

動物病院に行くとき・または診察室でどんな症状か伝えたいときにちゃんと説明できるか不安になったことはありませんか？

ワンちゃんやネコちゃん達は話すことが出来ないので、飼い主さんの“いつもと違う”が頼りです。話せない動物に代わりいつもと“どこが違う”のか“何が気になるのか”教えて頂く必要があります。固く考えず、ちょっと行ってみよう！診てもらおう！で大丈夫(^)V
ですが、少しプラスαがあると診察がスムーズに行くことがあります。

ウンチの検査をしてもらいたい！！



下痢やお腹の虫を検査したいとき、便を持ってきていただきます。紙やティッシュなどに包むと水分が吸収され、どのような形状のウンチかわからなくなります。良いウンチあればそのままビニール袋に入れて（土や猫砂がついていても大丈夫）下痢やつかめないほどのウンチならプラスチックのスプーンなどで取り、ラップ（ジップロックなど）に包んで持ってきてください。親指のひと関節分あれば十分です。



お尻や体に虫がいた

○お尻やウンチの中に虫がいた場合

写真より虫そのものを持ってきて頂いた方が○。虫と一緒にウンチも持ってきて頂くと、他の虫がいないか検査することができます。

○体に虫がついていた場合

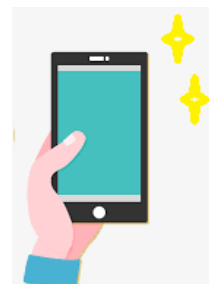
無理に取らずそのまま来院されてください。無理に取ると口吻などが残り化膿することもある。



できものがある

できものが大きい・目立つ場所にあるなど、分かりやすいところのものは何もされなくて大丈夫です。毛が長かったり、小さかったりしてどこにあるか探さないと分からなくなるものはその部分だけ毛を少し短く切ってみたり、目印をつけたりしてもらえると、家では分かったが病院に来たら分からなくなったという事が防げます。

見つけた人と病院に連れてくる人の情報共有も大切です。



気になる行動や動作がある

動画を撮ってきて頂くのが一番分かりやすいです。

なかなかその行動をするときに動画を撮るのは難しいとは思いますが、少しでも気になる行動が映っていればどんな行動を気にされているのかわかりやすいです。

変なものを食べた



玩具や口に入れて遊んでいたものなど、何をどのくらい食べたのか確認していただき、あれば同じものや大きさ、形状の分かるものを一緒にご持参ください。

誤飲したものによりX線検査やエコー検査、必要であれば催吐処置をします。



痙攣がでた

初めて痙攣を見た場合、まず飼い主さんが落ち着いて行動されてください。舌を噛みそうと口の中に手を入れたり痙攣中に体を揺らさず、落ちたりぶついたりしない安全な場所に移動させます。

安全な場所であればどのくらいの時間痙攣が続いているのか時間を見てください。

可能であればそのときに動画の撮影をしましょう。長い時間続いているようであれば急いで病院へ。

短い時間なら痙攣が収まってから来院されてください。来院される前に病院へ連絡をいただくと、来られるまでの間に痙攣の処置の準備をしておくことができます。



最後に！！

病院に来られるときは、大型犬や中型犬はリードにつないで来院ください。

小型犬や猫はケージに入れて、暴れる人に慣れていないネコちゃんはさらに洗濯ネットに入れてきて頂くと逃げ出さずに診察を受けることができます。

待合室では絶対にリードを外さないようお願いします。

ワンちゃんもネコちゃんもリードを外し自由にするとケンカをしたり、ほかの子に危害を加えたりしてしまふことがあります。また、玄関のドアが開いた拍子に逃げ出してしまふことがあります。大変危険です。